

シンポジウム 5

臨床現場での2025年ガイドラインの活用

2026年9月11日(金) 13:35 – 15:05 | 第2会場 (2F メインホールA)

座長 須藤 啓広 (ヨナ八丘の上病院)
鈴木 敦詞 (藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学)

単位 日本骨粗鬆症学会：認定医教育研修単位

講演プログラム (全4題)

1-SY5-1 新ガイドライン作成の経緯とポイント

鈴木 敦詞 (藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学)

10年ぶりの改訂で、Minds方式に沿ってクリニカルクエスチョンを設定し、システマティックレビューに基づきエビデンスと推奨の強さを決定。続発性骨粗鬆症・生活習慣病関連骨折リスクの情報を更新し、OLSを軸とした診療支援体制の構築を求める。

1-SY5-2 臨床現場での2025年ガイドラインの活用 — 開業医における薬物治療戦略の実際

小早川 知範 (小早川整形リウマチクリニック)

YAM値や骨折既往に基づく骨折リスク評価の実際と、高骨折リスク例に対するanabolic-first戦略。ロモソズマブ/テリパラチドで得た骨量をデノスマブ等で維持する逐次療法の最適シーケンスを、実臨床データを踏まえて解説。

1-SY5-3 新ガイドラインに基づく薬剤治療選択の実際

蛸名 耕介 ほか (大阪大学医学部 整形外科)

治療目標はT-score> -2.5 (YAM約70%)、大腿骨近位部BMDの3.18%増加が骨折抑制の目安。IOFの治療変更基準 (2骨折以上、6か月時のマーカー25%未変化やBMD低下) と、骨吸収抑制薬から骨形成促進薬・注射薬への変更の考え方を提示。

1-SY5-4 薬剤治療以外のエビデンス

石島 旨章 ほか (順天堂大学医学部 整形外科科学講座)

ビタミンD・カルシウム・たんぱく質の適正摂取、ロコモ/サルコペニア対策としての運動療法、転倒予防プログラム、骨粗鬆症検診の受診率向上、リエゾンサービスによる多職種連携を整理。